

IV-1 マナーをどう教えますか

エピソード1

私は夫と6年生の芳子、4年生の雅夫の親子4人で、電車に乗る順番を並んで待っていました。電車が到着しドアが開くと、後ろから低学年くらいの子が「ぼくが、席をとってあげるよ」と真っ先に乗り込んでいきました。車内に入るとさっきの子が母親の場所を確保し、母親も笑顔で「ありがとう」と言って座りました。あっけにとられていると、反対の降車側のホームから中学生が乗り込み、既に座席に座っています。これを見ていた芳子と雅夫が「ちゃんと並んでいると座れないから損だよ」と言い始めました。私たち夫婦を含め、低学年の子にも、中学生にも誰も注意をする人はいませんでした。



Work① 私(母親)は芳子や雅夫にどのような言葉掛けをしたらいいでしょう。

エピソード2

中学1年の娘の啓子が風邪をひいたので病院に連れて行きました。“病院内では携帯電話の電源を切ってください”と掲示されていました。

私は娘に「電源をちゃんと切った?」と言うと、体調が悪いこともあり、「ちゃんとマナーにしているよ」と、とても不機嫌そうな表情で答えました。

待合室で順番を待つ間、啓子は“マナーモード”にして、そうっと友だちにメールをしていました。音も鳴らないようにして、まわりに迷惑をかけているわけではありません。また、啓子の機嫌を損ねたくなかったので私は黙っていました。

この様子を見ていた看護師さんが、娘に「携帯電話の電波で医療機器が誤作動をおこして命にかかわることもあるのよ」と静かに話してくれました。

娘も私もハッとしました。



Work② 看護師さんの言葉に対して私(母親)はどのように対応すべきか考えてみましょう。

Work③ Work①とWork②についてグループで話し合しましょう。
Work④ 子どもに守らせたいマナーを書きましょう。

*

*

*

資料あいちの教育に関する
アクションプラン街頭広報ポスター（大人版）
愛知県教育委員会**Work⑤** 今後どのような姿勢で子どもに向き合うべきか考えましょう。

*

*

*

アドバイス

小学校の高学年になれば、多くの子は物事の善悪は理解できます。ただ、時として、「本当はこうしたほうがいいと思うんだけど、どうかな?」「分かっているけど、つい…」など、判断に迷ったり、他人に迷惑を掛けてしまったりする場合があります。これは、私たち大人でも同じです。自分の行動には責任が伴うことを自覚させ、より望ましい判断、行動ができるようにしたいものです。

